

市町村合併調査研究特別委員会

平成14年6月18日午後1時30分から第1会議室で開かれた。

1. 出席委員

◎西谷 剛周 ○野呂 民平 松田 正
中川 靖広 喜多 郁子 吉川 勝義
小野議長

2. 理事者出席者

町 長 小城 利重 助 役 芳村 是
収 入 役 中野 秀樹 総 務 部 長 植村 哲男
企画財政課長 池田 善紀 同 課 長 補 佐 山崎 善之
同 課 長 補 佐 西巻 昭男 同 係 長 加藤 恵三

3. 会議の書記

議会事務局長 浦口 隆 同 係 長 上埜 幸弘

4. 審査事項

別紙の通り

委員長

開会（午後１時３０分）

全委員出席されておりますので、ただいまより、市町村合併調査研究特別委員会を開会します。去る５月１０日の臨時議会におきまして本特別委員会が設置され、委員各位の互選の結果委員長に選任されました。野呂副委員長とともに会の運営に当たらせていただきますので、各委員さん並びに理事者方のご協力をよろしくお願いいたします。

本特別委員会につきましては地方自治法第１１０条及び斑鳩町議会委員会条例第５条に基づき設置しており、市町村合併についての調査研究が終了するまでとなっております。町、議会が互いに論議を交わしながらともに調査研究を行なってまいりたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

それでは、初めに町長の挨拶をお受け致します。町長

町 長

（ 町長挨拶 ）

委員長

まず最初に本委員会の会議録署名委員を私より指名いたします。

署名委員に、野呂委員、松田委員のお二人を指名いたします。両委員にはよろしくお願いいたします。

会議の進め方につきましては、事前に町から配布をいただいております資料につきまして説明をいただきました後、意見交換という形で進めて参りたいと思います。

また、広域圏協議会等における市町村合併における取り組み情報等の参考にできるもの、種々の動き等、機会を捉えて委員会を開催し、必要に応じて関係者の出席もお願いして進めて参りたいと考えておりますが、委員の皆様のご意見を聞かせていただきたいと思います。

（ 意見なし ）

委員長

それでは、そのように進めて参りたいと思います。

まず、町で用意していただいております資料に基づいて説明をお願い

	します。
企画財政 課長	市町村合併についての広域圏での状況でございますが、去る５月３１に広域７町の助役、総務部長により王寺周辺広域市町村圏合併研究会打合わせ会議が開催されました。その中で研究会を発足されることといたされました。 第１回目の会議といたしましては、７月２２日開催される予定でございます。研究会の目的といたしましては住民、議会を含めた合併議論を進めるための資料の収集と分析、そして住民への情報を提供をすることとされております。なお、研究会の構成といたしましては、助役、広域圏担当部長及び財政担当課長となっております。 続きまして資料のご説明をさせていただきます。 （ 資料により説明 ）
委員長	説明が終わりましたので、質疑、意見をお受け致します。
中川委員	６ページの地方交付税の算定の特例ということで、下の白い部分が合併後本来の交付税の額、その上に増加額というのがありますが、合併しなかったらこの白の部分はどのような形になるか教えていただけますか。
企画財政 課長	合併しなかった場合については、斑鳩町の場合は斑鳩町独自の算定方法で計算します。その算定方法については国で決めた額どおりの算定をいたします。 この合併後と言いますのは、例えば広域７町で合併して人口１５万人になったときには普通の計算をしていったら、交付税というのは仮に単純計算して合併後１００億になったとします。それぞれの市町村が合併しないで積み上げてきた金額は１５０億となったとしても、この１５０億はもらえるということです。

中川委員 普通に算定すると１００億やけど、７町全部を計算すると１５０億になりましたと。この特例法のある間はその計算どおり１５０億出しますよと、１０年後から１年ごとに１０％ずつ落としていきますよと、１５年後にはその白い部分に戻りますよという計算の仕方ですね。ですから斑鳩町が７町で合併したとしたら、１０年間は増額の部分はあるけど、後１年ごとに１０％ずつ下がって行って１５年後になると今と同じ交付税額になるという計算でいいですか。

企画財政課長 おっしゃるとおりです。合併した場合どうしても行政経費という効率が良くなりますので、その分地方交付税の額も小さくなってまいります。

中川委員 今斑鳩町独自で地方交付税の関係があって、合併したとして、１５年後には今と同じ７町全体のが元の交付税額に戻ってくると、そしたら大家族になったときに元に戻ったんただ斑鳩町がそのまま独自にいるのとどちらがどうかというのは分かりませんか。

企画財政課長 それらについての推計については冒頭申しあげましたように、研究会の方でも研究してまいりたいと考えております。その中でいろんな資料を集めた中でお示しできる時期があると思います。

中川委員 今から研究していかんとわからへんことやから、企業や家族と一緒にしたら失礼な話か分からないけれど、厳しいときに大家族はしんどいですよね。企業も中途半端に大きなりすぎるとしんどい企業も出てきます。そういう心配は出てきませんか。地方交付税が元に戻るとするならば、結果１５年後にはどんな状態にいるのか、今とどう変わっていくのかということを勉強していかないとあかんと思うけれど、１５年後戻ったときにどっちがいいのかなと、斑鳩町単独でおるのか、７か町合併した方がいいのか調べようありますか。

委員長 町からデータを出してもらおう中で、いろんな数字を見ながら、今言われているのは将来市になったらこういう形になるというのが出てくるだろうし、斑鳩町そのままでおいたらどうなるということもこれからしていけないといけないと思う。

松田委員 今回初めて始まった特別委員会をどういう視点で議論せしめていくことにするのかとい方向付けをしていけないといけないと思う。行政側から説明がありましたけれど、主としてその説明は手順の問題を中心として説明があったと思うのです。そこまで行けたら論議がかなり煮詰まってみたものと見ていいと思う。私はそれ以前の問題として一番大事なことはないか。だから一般的にこの合併の関係、今なぜ市町村合併なのか、総論としては合併すべきやろと、しかし具体論になって議会や住民の中にそういうことになってくるとなかなか具体化は全然していない、というのが実態だと思う。総論から言うけど、具体的に示されている点がないということからいきますと、我々は今なぜ合併なのかと議論する前提になるのは、現状の町の実態はどうなっているのかということについて、財政的にも住民の生活の面、いろんな面から見てどうなっているのか、本当に行政上施策が行き詰まってきているのかどうか、またそれを打開するためにはどうしたらいいか。あるいはそれ以上に支出をさせるためには合併した方がいいのか。という関係の議論をすることが必要になってくるのだろうと思う。その辺のところが今までの議論の過程において、またシンポジウムにおいても抽象的だと思う。ひとつの合併というのは住民の上に具体的な問題として直ちに顕れて来ることにはなりにくい。従って行政側との問題の提起をしなければ、住民の意識というものが十分に高揚しないままに推移をしてしまう。何も素材がないままに抽象的に、メリット、デメリットを議論して水掛け論に終わってしまうだけだということですから、身近な問題を引き寄せて合併町村の具体的な事例を寄せながら議論を進めていくということが大事だと言われているわけです。そういう意味からいきますと、私どもは今更既成事実のように7

町合併とか言っていますけれど、7町がいいのかあるいは4町が合併した方がいいのか、どこと合併した方がいいのかという関係は、これからの議論の過程において初めて出てくる問題ではないのか。そのためには現在の斑鳩町の実情、将来の展望、そして特に財政についてはどうなのか。当面課題としている事業などについてはどういう事になっているのか。端的に町に必要なものと言ったら下水道の関係があると思います。箱物の関係についても周囲の市町村の関係から言って、本当に無駄な投資が各町行われているのかどうか、それを共通した物として活用していくことが可能なのかどうか。こういうことの議論が出来ていないわけですね。だからそういう意味から行くと、かつて資料を出されたことが県段階でもあるのですが、我々が議論をしていこうという対象としている各市町村関係についての財政的なシミュレーションの関係を的確に把握するということが必要だろうと思うのです。結論的に言うと現状をどう把握するのか、周辺の各町村の、そして斑鳩町が行き詰ってそれを打開するためには合併した方がいいのか。あるいは自ら行った方がいいのか、そういう議論が必要となってくるだろうと思う。そういう為には、例えば生駒郡で合併したときに人口の規模が適切なのかどうか、それは小さすぎるということになるのか。だからもっと広い範囲で行っているような広域行政を行っていく状態でしょうということになるのかどうか、検証しないといけない。そういう意味で、私は人口や規模や面積とか、あるいは財政の面で歳入歳出の状況であるとか、あるいは建設事業の関係はどうなっているのか、地方債の額、職員数はどうなのか、それがどう変わっていくのかという関係をまず分析・検討を始めていって、そしてここはこうだ、このことは前進することは可能だ、という面を具体的に出して、それが住民にひとつずつ説明していく、そこが必要と違うのかなと思うのです。例えば箱物施策が進行して借金ばかりか増えたというけれども、今どれだけ各町村箱物の関係については、合併するなら合併するでどう有効に活用することができるのか。あるいは何を求められてそれができないという状況にあるのかという面で、特に具体的な例で言いま

すと、いわゆる迷惑施設と言われていています斑鳩町の場合で言うと、例えば火葬場、ごみ処理、そしてし尿処理、こういうものは町独自の関係で現存して困っていないわけですね。ところがこういう関係について行き詰まって何とかしなければならないという町村もあるわけですね。斑鳩町が今一番何を求められているかということ、ある意味で道路物の整備でしょうか。そのことが進むことになるのかということ。議論は幾つかあると思うのですが、そのようなことで現状を出してみても、それはこうすればこうなるということ具体的に提示をして行くということでない、この問題は空回りしてトーンダウンすることにならないかなという気がします。だから合併のメリットデメリットの論議をすることも必要ですが、抽象的なものでなく、具体的な実証の中からそれを割り出していく。そして合併が必要なのか、合併はすべきでないということになるのか、あるいは合併するとすると4町よりも7町、当面の課題としてそういうことになるのか、そういうことになってくるだろうと思う。そしてそれでいいとなったら、後は手順の問題ですからこれをより粛々と進めていく。ということになるんだろうと思いますから、一番重視すべきは現状分析から入ることが議論の先ではないでしょうか。そういうことができなくて手順だけ論議してもどうにもならないと思う。

野呂委員 私も合併によるメリットデメリットというものをきちっと調査する必要がある。それぞれの項目があると思う。財政問題であり、あるいは現状の町づくりの主要道路はどれだけ行われているとか、その道路に対してはどうか、集会所みたいなものについてはどうか、それが7町でどれだけ違いがあるかということですね。ですからそれらについての拾える項目の意思統一をせなあかんと思う。住民が感心をもっているようなものから調査をして、合併した場合にそれらのものがどういうことになるのかと、斑鳩町民にとってどういうメリットデメリットがあるのか、そういうものを開示しなければならない。ところがそういったものがどれだけ正確に調べられるかという問題ですね。理

事者側としてはそういったものについて、どれだけの正確さで調査できるのか。それは7町自体が全てを開示してくれれば非常にスムーズに行くと思う。その辺はお互い事情があることでありましょうし、なかなか難しい問題もあると思うのです。

もう一つは、そういうものが進むに従って7町としてまとまるのか、あるいはたとえばそれを考えたら王寺が中心になると、後は支所になると、例えば平群町やったら7町の合併というよりも生駒市の合併の方が通常考えた場合、より密接な関係になってきているのではないかという気がします。それから安堵町やったら、安堵の住民が王寺まで行かなければならいということになりますと、そうすると大和郡山市に隣接しているという関係から言えば大和郡山市との合併のゾーンではないかと。いろいろ変わってくると思う。そういう点については行政側はどう考えているのですか。

助 役

先ほど池田課長が7町における王寺周辺広域市町村圏合併研究会の中で説明したと思いますが、5月31日に7町の助役、総務部長がいました。いろいろ議論いたしました。まず設置目的、そして規約に基づく委員ということで、7月22日に発足しようということでございます。その中で目的としての7町の研究会設置につきましては、7町の行政制度、行政サービス、そして施策の整備水準等、あらゆる行政の分野にわたって比較した行政内容分析調査これをつくろうということで、これを作る目的として、これについての分析をするということで、全ての7町が今言いましたようなことで、まずそれから始めようということになっております。本町においては7町の情報を得た場合にはお知らせいたしたいと思います。

喜多委員

7町ということで集まっておられます。7町は県が示したモデルプランというか学会のシュミレーションのようなものを示した中の7町というように理解しているのですが、これは7月22日に発足なさるその行政内容の調査を目的にする研究会ということですが、まずこの

7町が合併をするという前提で内容調査をしていこうという目的であるのか確認させてください。

助 役 5月31日に総務部長がいろいろ議論した中で、そういう話がありとにかく調査研究をやっていくということでございます。今言われたような話は出ておらないということでございます。

喜多委員 それでは目的が7町必ず合併をするということではなくて、それぞれの各町の行政運営の概要を現状の調査をしながら、この7町が合併をしていった方がいいのか、それともどういうスタイルでいくのかということの研究していくというふうに理解したらいいですか。

助 役 調査研究会につきましては、そういうことでなしに、今言いましたような形でやはり行政のあらゆる分野を出しあって、それに対する研究、課題をしていこうということでございます。

吉川委員 やはりどう進めていくかということが一番大事。今までに平成6年から合併せんないかん、特に町村長は合併は必要だといつも言っておられる。言っておられるが、それをいいか悪いかという議論はひとつもしておられない。そしてずっと来ている。今最近議員からもいろいろ合併についての研修や視察をいろいろやっていただいている。先ほど助役さんからお話あったように、研究会を立ち上げて進めて行かれる。みんなから意見を聞くのか、斑鳩町だけで考えていくのかその辺も検討しないといけない。

委員で今後どう検討していくのかということをまとめてもらいたい。

池田課長が説明してくれたことについては、前もってもらったのですが、これは合併を前提の資料ですね。だからどうするかということ为先にやらんと、合併もあまり考えていないというのにこんな議論しても何もならない。やっぱり合併が必要になるのかどうかというこ

とを先に議論せんといかんと思う。

委員長

合併というのはあくまでも住民が今も将来20年後も30年後も安定した生活ができるということをするための手段として、国は財政の関係もあって合併した方が国の財源としてもより効率的にできるからということで、合併というのは1つの手段やと思う。その中で合併するかしないかという前に結局今まで議論が全くされてなかった中でそうしたら斑鳩町としてこのままで行ったらどういう形の将来像があるのだろう。そういうことが具体的な数字で町の方から7町のそういう財政なりサービスの状況なりというものを出示してもらい、あるいは高齢化少子化社会の中へ入っていく、今後の各町の客観的なデータを見ながらその中で議論して最終的に合併するとかしないとかという結論が出てくるのではないか。それも最終的には合併するしないということについては住民の方の判断になるのやないかなという気がします。だから早計に合併するしないというのを出示したら議論にならないと思う。

吉川委員

それをするために議論しようと言っている。いつも言っているように住民本位でいいわけです。その意見をいかに採り入れるかや。合併を前提にというのではなく、それをいかに住民の意見を吸い上げるかということ。

松田委員

これはまったく水掛け論みたいなもので、それでは物事は進んでいかないと思う。だから例えば合併という関係について抽象的な関係では4つくらい関係があつていいと思うのです。住民の利便性が高まるとか、サービスの高度化、多様化に対応できるとか、あるいは行財政の効率化が図れるということと言われるのです。それは具体的に我々が今住んでいる町にはどうなるのかということについて、細かい面については何も言ってもらってないと、例えば学校が増えるということになるのか減るということになるのか、あるいは観光の関係が栄

えるということになるのか、そのような関係について全然言わずに、ただこういうメリットがあるといことを言っているだけですよね。そうすると抽象論としてそんなこと言うけど、具体的にさあどうかという選択に迷う。だから合併を前提にしてもものを考える場合には、こういうことがいい、こういうことがあると、こういうふうを考えていくというようなことができないかどうか、ということを出して、それを住民に積極的に情報公開していく、言わば住民に呼びかける、提起をしていくということが第1ではないのかなと思うのです。

だからそのためには、現状どういうところに行き当たっているのか、何が行き詰まりつつあるのかということと、合併によってどういう町づくりを描くことができるのかという像というものが出てこない、住民に積極的に訴えることにはならんのと違うのかなと思う。そういう問題を住民に提起していく、情報を提供するという議論を我々としてはなすべきではないかと思う。

まずは幾つかの話題を提供していくということから始めていかなければなかなかこの議論は深まっていけないのではないかと思うのです。

喜多委員 今これから何を研究していくかということのみんなの意見を聞いている中で、我々が任されたという日というのは来年の3月までですね。その3月までにどの辺まで研究調査をしていくという大まかなスケジュールのようなものがあって、その段階では例えば10年後の斑鳩町の人口と人口配分、それと特異な地域性を持っている観光問題とかそういうことをかみ合わせながら将来像を作り上げた中でそれはプラス面とマイナス面とを検討しながら、ある意味で合併を目指すのか、どの辺までできるのか、事務方さんの出してくれる資料にもよりますが、あらかたそういうことを描いていないと、ある意味でスケジュールのようなものがないと、何を勉強していったらいいのか分かりませんので、その辺調整しながらあらかたつくっていただきたいなと思います。

野呂委員 今助役が言われた各町の現況調査ですね。このことは絶対必要やと思うのですね。それをやって、斑鳩町だけでなく他の町にどういうレベルなのかということをごここで明らかにする必要があります。それでも合併をしたとなれば、7町ではどういう状況になるか、4町ではどうなるかとか、そういう現況調査を基にして合併したらどうなるかというシュミレーションをつくって見る必要があります。そういうシュミレーションをつくった場合、どういったところで欠陥があるかとか、どういったところで利点があるかとか、そういうものが具体的に想像ができると、そういうものを住民にも返していかないとけない。

もう一つ難しいのは、うちだけが決めたかて相手があることですから、7町を相手に話をせんといかんのですから、基本というものが合致した時でないで合併というのはできないから、そういう難しさもあると思う。

委員長 今言われているような7町の現況の分かるような資料とか、あるいは将来20年、30年を見越す財政力指数とかその辺も含めての推計というのはどれくらいの期間で揃えられますか。

助 役 この調査研究会の5月31日にいろいろこのことについては期限を決めようということで提案しました。期限は決められないということで意見は一致しました。こういうことでございます。7月22日発足して、そのことについては特別委員会に報告していきたいと思いますが、期限は決められないということは7町一致しております。

資料については、大まかなものについては先ほどいいましたような7町の行政制度とかあらゆる面において出して行きたいと考えております。

町 長 何れにしても市町村の関係で協議会等、県がやった関係のシュミレーションがありますから、7町のシュミレーション、4町のシュミレーション、そういう中でそういう関係についても県の関係等について

もございますから、当然出させていただきます。

合併については7町の町長は合併をしていくということの方向付けは決まっている。私は住民サイドがアンケートで、合併に賛成するのは上牧町が一番高いわけです。斑鳩町が一番低いわけでございます。今のことを十分に精査をして、問題は7か町はそういう方向付けをする、また4町としてそういう方向付けをするということを定めていかなかったら、私は斑鳩町の町民に対して斑鳩町の合併としてはよろしいですかという方向付けをしていかなかったら、私は町民のいろんな考えがあると思います。

委員長

次回までにそういうデータは出せますか。

議 長

この特別委員会の設置についても議運で提案させていただきました。町長が申し上げたと思うのですが、議長会、町村会でも合併するのだったら7町で進めて行くんだという話になっていますし、その中で17年まで難しいのではないかという意見もあると聞いています。その中で、議会人としては17年3月までに促すように最大の努力をすべきだという考えを持っていたのです。確かに日程的に無理ではないかという話もたくさんあるし、実際無理かもしれない。そのことで特別委員会は日程的にどうするのか、また他町との温度差をどれだけ一緒のものにしていくのかとか、そして斑鳩町議会議員としての議員同士の温度差というものもあわしていかないといけない。その特別委員会だと認識しています。

私は参考までに聞かせていただきたいと思いますのは、初日に配布させていただきました陳情書、これは行政側にも出ていると思うのですが、西和地域7か町の市町村合併推進についてということで、7町に陳情されているみたいです。その中でもこの2つの目的を今後どのように議会としては返答するのかという1つのいい指針になるのかなと思う。これらの陳情書をどのように受け止めて、どのように考えていくのか、それらの進め方もひとつの方法だと思うのでよろしくお願

いしておきたいと思います。

委員長

陳情書に関して委員より何かご意見ございますか。

議 長

この中で①として、合併特例法の期限を視野に入れてということで、これは町長が申されたことにも合致してくるのではないかと私はそのように思います。期限が間に合わないかも分からないという町長さんもおられるような話でしたが、今から3年弱ですので、先ほど池田課長からの説明では22ヶ月というひとつの目安があるということです。なのでまだ間に合うと思います。そのように私も考えますし、できるだけ将来に向けてやっていただきたい。ただ合併協議会を設立したからといって必ずしも合併しないという問題でないし、先ほどから野呂委員がおっしゃっているように、やはり正確な情報を得るためには合併協議会という形が一番いいんだというような、今助役、総務部長各町のメンバーで広域圏の研究会というのはあくまでも任意の研究会であって、やはり法定に基づく協議会を設立してやっていただきたい。

②の議会及び行政は住民に対し、合併問題を正しく理解し判断ができるように「情報の共有」、「住民参加」を基本にということは、まさしくこの通りだと思います。そういう為には合併問題懇話会という形もあると思うのですが、その中で、先ほど説明のありました住民発議、その前段にも書かれていたと思うのですが、住民発議による合併協議会の設置をも視野に入れた活動を展開しています、と申しておられますし、議会としても行政としても是非とも将来のことについて真剣に取り組んでいく必要があると、これは町長が12月議会に施政方針で申し上げられたとおり、また3月議会でも申し上げられているとおり、合併問題については議会とともに進むことをお願いしますということで申し上げられているとおりのことで、議会も対応しております。そういう認識の下での進み方でよろしくお願いしたいと思う。

吉川委員

どう進めるかということのをさきにきめておかないといけない。仮に

斑鳩町が進めるとしても、それがよそがっやってなかったり、同じように働きかけても、その間斑鳩町は待っているのかということになる。だから議長会においても働きかけて、真剣に議論をやってほしいと思う。

委員長 休憩いたします。（午後２時４５分）

委員長 再開いたします。（午後３時００分）

今まで皆様のご意見をお聞きした中で、確かに合併というのは１つの町村でできませんから、斑鳩が進んでも他のところの温度差があってはという意見もあるのですが、とりあえず斑鳩町としては斑鳩町の特別委員会ができた中で具体的な数字で、少なくとも斑鳩町の住民の方々に斑鳩町の現状を分析、検討した結果を住民の皆さんに公表して、合併に対するそういう意識を高めてもらうということを含めてとにかく他町村の良否にかかわらず、斑鳩町としては積極的にそういう実態の調査、あるいは各町村の資料についてできる範囲内で智慧を住民から提供してもらって、それを基に審議をしていくということでもめたいと思うので、こういう形でまとめさせてもらってよろしいですか。

吉川委員 前に議長会から、調査結果と運営の手引きとかいただいていますね。これを参考にしてもらって、先ほど委員長言ってもらったようにまとめてもらったらどうか。

委員長 具体的に町の方から出してもらった資料も含めて・・・
池田課長にお尋ねしますが、町としてどの程度の資料を出せるのか。

企画財政課長 資料については膨大な資料になります。斑鳩町単独では１人や２人の職員ではできない量になってきます。当然今町で持っております奈良県の各市町村のデータがあります。それについては公表されておる

ものでありまして、それについても議会のデータ、7町のデータ、また4町でやったらどうなるか、7町でやったらどうなるか、その資料については出していききたいとは思っております。あといろんなサービス部門等については少し時間をいただきたいと思います。各市町において出してもらえない資料もあるかと思えますけれど、それは先ほど助役が申し上げましたとおり研究会の中で資料がまとまったら出していききたいと思えます。

当面は先ほど松田委員さん言われたような財政的な面で現状についてまず当面出していって、議論の資料としていただきたいと思います。

委員長

それではそういう形で進めていききたいと思います。

町側の方から、斑鳩町の現状について、あるいは7か町の中で公表されている資料等々を含めまして次回に提出してもらって、それを基に審議をやっていききたいと思います。

なお、委員会としてはこの資料ができしだい皆さんに集まってもらうということで了解していただきたいと思います。

他に無いようでしたら、これをもって本日の会議を終了いたします。

なお、本日の会議委員会報告のまとめにつきましては、正副委員長にご一任いただきたいが、ご異議ございませんか。

(異議なし)

委員長

ありがとうございます。

それでは、閉会にあたり、町長のあいさつをお受け致します。

町 長

(町長あいさつ)

委員長

これをもって本日の会議を閉会いたします。

(午後3時15分)

